

幸せの国・ブータンの

メリーポピーたち

13

花を求めてブータン紀行

メコノプシス・ポリゴノイデス



リンシ・ゾン（城）の下 標高 4050m



タケタン谷 標高 4030m

松永秀和

ブータンの建国は、400年前にチベット仏教の一派が南に逃れてきたことに始まる。彼らが辿ったのは5000m超のチベット・ブータン国境を越え、リンシに入り、そこから南に下り、ティンプーに至る道であった。国境は閉鎖されているが、現在でも中央と北部を結ぶ幹線であり、放牧者や地元民が隊列を組み、馬の背にヤクのチーズや毛織物を載せて首都へ運び、帰りには米や日用品を持ち帰る生活道だ。また、時にはチベットからの密輸品が運ばれることもあるという。そんな街道（といっても、ヤクや馬が通れるだけの踏み跡道であるが）の傍らの藪の中にひっそりと咲くのが、メコノプシス・ポリゴノイデスだ。この花は、チョモラリトレックの中でも限られた場所에서만生育せず、幻の花である。このため、リンシでは2日間滞在して探したが、幸いジチュドラケから流れ出す氷河の先端部のブッシュの中で2株見つけることができた。高さは50〜70cmほどで、茎の先端に4弁の小さな花をつける。形はすらりとして優美だ。他の青いケシと違い剛毛もほとんどない。その楚々とした姿は竹下夢二が描く美人画を思い起こさせる。

この後、ティンプーへのコースは、本道から離れ、地元民しか通らないレディ・ラ越の道をとったが、下ったタケタン谷でM・ポリゴノイデスの群落に遭遇でき、幸せな時間に浸ることができた。